

10. 応用生物科学部

(1) 応用生物科学部の教育目的と特徴	10-2
(2) 「教育の水準」の分析	10-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	10-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	10-13
【参考】データ分析集 指標一覧	10-18

(1) 応用生物科学部の教育目的と特徴

1. 応用生物科学は、生物と生命に関する学理と技術を究明し、得られる成果を生物産業に応用することを目指す総合科学である。応用生物科学部は、その歴史と特性を活かし、応用生物科学の教育と研究を通して人類の幸福、とりわけ持続的生存と生活環境の向上に貢献することを理念とする。
2. 本学部憲章の教育目標では「凜乎真摯と自化自育の精神を育み、科学的な思考能力と応用生物科学に関する高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する」を掲げている。
3. 本学部は以下のような能力を養うための教育を組織的に展開し、広く生物科学・生命科学・生物環境科学や関連産業に貢献できる人材を養成する。
 - a. 技術者に求められる高い倫理観を持ち、真摯な姿勢で課題に取り組むことができる。
 - b. 変貌する社会環境に対して自ら課題を設定し、主体的に対応できる。
 - c. 社会における自分の役割を自覚し、他者と協力して取り組むことができる。
 - d. 応用生物科学の学理と技術を修得し、生物産業の発展や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全およびヒトと動物との共生などに応用できる。
 - e. 幅広い視野・経験と広い専門的知識に基づき柔軟かつ総合的な判断ができる。
 - f. 自分の考えや判断を適切な方法で的確に表現できる。
4. 応用生命科学課程は、応用生命科学に関わる専門的知識と技術を習得し、人類の健康と環境の向上に活用するための科学的思考力と実践力を身につけた人材であることを保証する。
5. 生産環境科学課程は、生物科学や生物環境科学を共通の基盤とし、応用植物科学、応用動物科学及び環境生態科学のいずれかにおいて体系的な専門知識と技術を修得し、自然と共生した人類の持続的生存、生物資源生産や環境管理の諸分野で活用するための科学的思考力と実践力を有する人材であることを保証する。
6. 共同獣医学科は、動物の健康維持に関する幅広い知識と技能、問題解決能力、科学的・論理的思考力、実践的行動力、リスクマネジメント能力を有し、コミュニケーションスキルが高く国際性に優れ、公共獣医事 (Veterinary Service) を担うことができる人材であることを保証する。
7. 東海国立大学機構の設立を契機に、本学と名古屋大学が培ってきた農学に関わる教育研究リソースを統合することにより、農業生物産業に係わる高度な教育研究拠点を構築し、国際通用性のある質の高い教育の実践を推進することとしている。両大学の強みと社会的意義は、日本学術会議が定めた農学の7方向性を勘案すると補完関係にあるので、これまでの実績を基盤に国内外で農学分野のリーダーとして活躍する人材を養成することを目標としている。本構想の実現を目指して、学部・学科の改組を含めて検討していることは大きな特徴となる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4210-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料（再掲）4210-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4210-i3-1～4210-i3-2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4210-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、中・長期的な教育方針の立案、教育活動の検証及び改善を積極的に推進する仕組みとして「教育改善室」を設置している。この教育改善室において、学生による授業評価を検証し、その結果を学部内へ公表することにより、教員自らの教育改善を促している。また、検証の結果、問題が明らかになった授業に対しては改善を促している。このような取組の結果、授業評価結果が高いレベルを維持するなど、授業科目の内容改善の効果が認められる（図 1-3-1）。授業評価のポイントの学部平均は、第2期終了時と比較すると横ばいであるが、3.0未満の科目数が第3期に大きく減少している（図 1-3-2）。また、2.5未満の科目は2016年以降なくなっている。3.5未満の科目は、第2期中期目標期間6年間

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

は1年あたり平均 30 科目程度であったが、第3期中期目標期間3年間の平均では20科目以下に減少している。

これらのことから、底上げに成功していると判断できる。関連するFDを多く実施するとともに、毎年度末に教育に関するシンポジウムを公開で開催することにより、情報共有、優れた取組の浸透を積極的に図っている。[3.1]

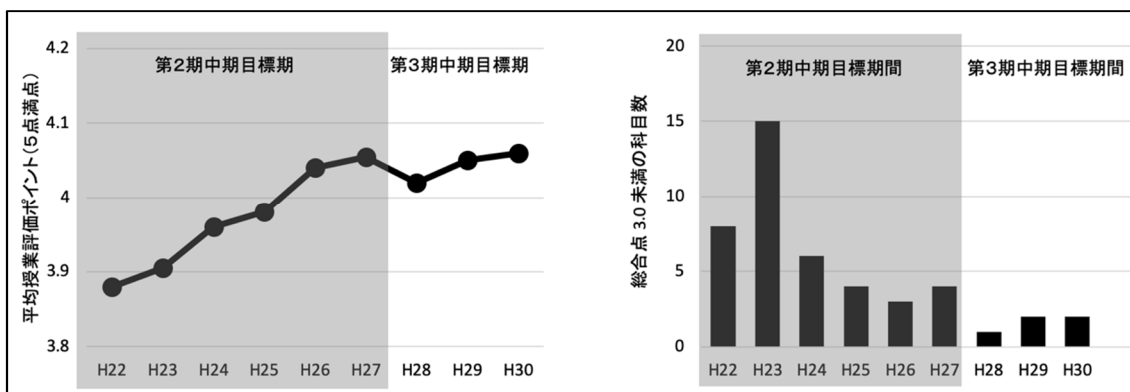


図 1-3-1 学生による授業評価ポイントの推移

図 1-3-2 授業評価ポイント 3.0 未満の科目数

- 2018 年度に完成年度を迎えた共同獣医学科においては、教員ならびに共同獣医学科の全学生を対象に、教育課程とカリキュラム全般（開講時期、遠隔授業・集中講義・学生/教員移動型などの開講方法等）に対するアンケート調査を実施した。この結果および従前から実施している各種アンケート等を共同獣医学教育開発推進センターが主体となって総合的に分析し、共同獣医学教育カリキュラムの改善に向けた提言を作成した。この提言に従い、新しいカリキュラムを構築するために、鳥取大学との協議を進めている。[3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4210-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4210-i4-2～4210-i4-5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4210-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 4210-i4-7)
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部は、凜乎真摯と自化自育の精神を育むこと、すなわち高い倫理性を備え、自ら高みを目指す学習姿勢を涵養することを目標としている。これら精神を育む教育を組織的に展開するため、第2期中期目標期間に初年次教育について検討し、初年次セミナーの組織的改革を進めた。第3期においては、内容の見直しを含めて改善に取り組んだ。従来通り、TA・SAの個別指導の下、日本語運用やレポート作成、倫理をテーマとして学習を進めるとともに、ノートテキング・レポートの実践的練習を繰り返す構成とした。また、教員のみならず、大学院生や留学生による講演を実施し、学ぶ動機付けや意欲向上を目的とした内容も導入している。図1-4-1のとおり、初年次セミナーの授業評価アンケートでは、総合評価として肯定的評価(5段階評価の4以上)をする学生の率が、第2期で45%であったのに対して第3期の2017年度以降は60%を超えていることから、初年次教育の改革も組織的に進んでいると判断できる。[4.5]

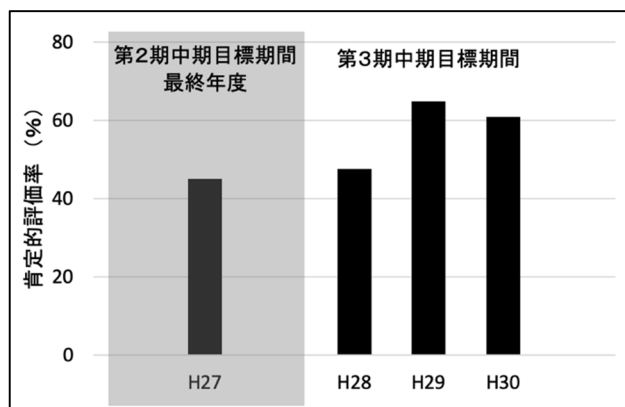


図1-4-1 初年次セミナー受講者の肯定的回答率

- 2013年度に設置した共同獣医学科では、公務員獣医師・産業動物獣医師が不足している実情（獣医師の分野別偏在）に対応するため、関連する教育の強化を行った。従来の旧カリキュラムにおけるインターンシップ実習では、基本的には学生が希望する機関に派遣していたが、新カリキュラムでは派遣先を家畜衛生、公衆衛生分野に特化することとした。2017年に共同獣医学科の在学生全体（1～6年生）を対象に行ったアンケートにおいて、入学時に公務員獣医師を希望する進路とする学生の割合は約25%であるが、在学中に50%近くまで上昇することがわかった（図1-4-2）。特に、その上昇率が4、5年生で顕著であることから、教育の仕組みによって獣医師の分野別偏在問題に対応できていると考えられる。また、旧カリキュラムで教育を受けた6年生においては、入学時と在学時の公務員獣医師を希望する率に変化が見られないことも、新カリキュラムが効果を上げていると判断できる。[4.2]

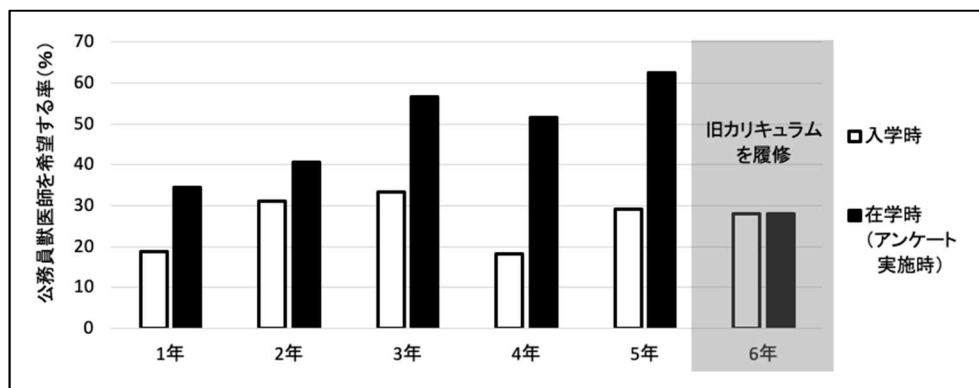


図 1-4-2 入学時と在学時における公務員獣医師を希望する学生の比率

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 4210-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 4210-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 4210-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 4210-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 第2期中期目標期間は、正課外の実習に関しては十分な把握がなされていなかったため、2018年度にインターンシップ実施要項を取りまとめ、正課、正課外に関わらず学部の実習届を提出し許可を得ることとした。これにより、全てのインターンシップ実習について、派遣先、実施期間、実施状況が把握できるようになった。また、「学生教育研究災害傷害保険」ならびに「学研災附帯賠償責任保険」の加入状況が確認できるようになり、安全面の確保が可能となった。さらに、派遣先との覚書の取り交わしや誓約書の提出が適切な手順で行われるとともに、事前指導ができることから、社会的に問題のない運用が可能となった。[5.1]

○ 履修上特別な支援を要する学生に対し、全学の障害学生支援室（サポートルーム）とも連携し組織的な学習支援を行っている。関係する教員を対象にFDを行い、要支援学生について情報を共有している。特に体験型の学習（情報処理演習や実験・実習など）では、特別にTAやSAを配置した。要支援学生対応のTA及びSA学生には、事前に説明会を開催し情報共有をはかるとともに、注意点などを説明した。[5.1]

- 第2期中期目標期間中（2013年度～）に、本学部の教室の講義時間外活用及び学部後援会からの補助により、外部英語学校と連携した「TOEIC スコアアップ特別講座」を開講し、英語学習環境を整えた。この取組が定着した結果、第3期中期目標期間には TOEIC の受験者数が増加した（図 1-5-1）。平均スコアも第2期と比較して、第3期は上昇している（図 1-5-2）。[5.1]

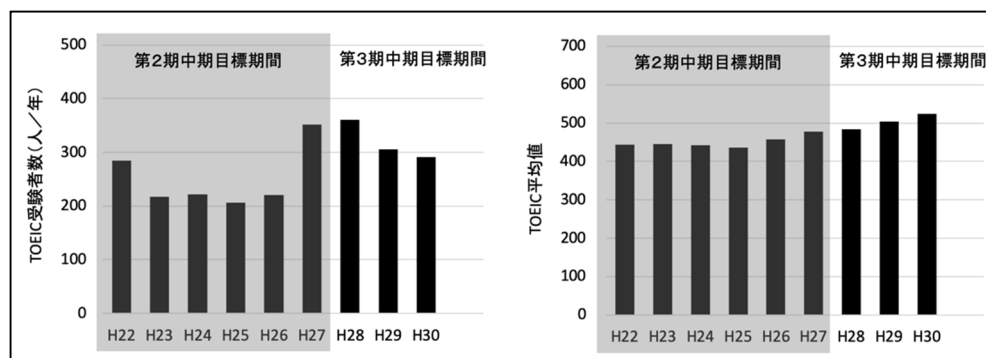


図 1-5-1 TOEIC 受験者数の推移

図 1-5-2 TOEIC 平均点の推移

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4210-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4210-i6-2【非公表】～4210-i6-3【非公表】）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4210-i6-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育改善室が主体となって分析を進め、「成績評価分布の分析」とする報告書を作成した（別添資料 4210-i6-5【非公表】）。特定の評価に偏る科目の多くが、合格か不合格かの二者択一となる性質の科目であることが浮き彫りとなった。このような科目の取扱いを教学委員会で決定し、全教員へ提示した。また、全教員を対象にしたシラバス及び成績評価に関する自己点検評価を行い、シラバスの記載通りに授業と成績評価が実施されていることを検証した。2014年度から冊子シラバスを廃止し Web シラバスのみとしたが、第3期当初の公開率が8割程度であったのに対して、2019年度にシラバスの記載項目の点検を各科目で実施した結果、公開率も100%になった。[6.1]

＜必須記載項目 7 卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4210-i7-1（第 15 条））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 4210-i7-2（第 60、61 条）～4210-i7-3（第 5 条））

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業研究の教育目的を再検討し、教育的な意義に基づいた指導体制を再検討するとともに、「卒業研究の理念と方針」及び「申合せ」あるいは「判定基準」を作成して厳正な評価を行っている。[7.2]
- 共同獣医学科では、「卒業研究」及び「卒業研究プレゼン演習」を必修科目として 5 年生及び 6 年生に配当し、その実施にあたり「理念と方針」（別添資料 4210-i7-4）及び「申合せ」（別添資料 4210-i7-5）を、共同獣医学課程を共同で実施する鳥取大学と共に定めた。すなわち、卒業研究の成果を論文として取りまとめるとともに、必修科目「卒業研究プレゼン演習」として成果内容の口頭発表を両大学合同で遠隔教育システムを用いて実施した。合同発表会では、両大学の学生及び教員を交えた質疑応答を行い、お互いの研究内容に対する相互理解を深めた。

＜必須記載項目 8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料（再掲）4210-i1-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4210-i8-1）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、教育改善室を中心に教育評価システムを構築した。第 3 期はこのシステムを運用し、2016 年度に応用生命科学課程、生産環境科学課程、2017 年度に共同獣医学科の教育評価を実施した。教育評価を受ける当該課程・学科以外の教員を評価委員とする第三者教育評価委員会を立ち上げ、自己点検評価書を基にした現状分析と対応策の提言を答申書にまとめた。この答申書を踏まえ、教育の 3 ポリシーの再検討の際、アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法の基本

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

方針並びに学力の3要素の関係性の観点から検証を行い、アドミッション・ポリシーに沿った入学試験を実施していることを確認した。また、受験生が入試情報を入しやすくなるよう、学部 Web サイトのコンテンツ構成を一部変更した。

[8.0]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料(再掲) 4210-i4-6)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、2015年度から JASSO の海外留学支援制度(双方向協定型・協定派遣)に採択されており、各国の遺伝資源の重要性や利活用についてグローバルな視点で思考出来る職業人を養成するプログラムを実施している。対象とする領域は、食品産業や医薬品産業およびバイオマス産業などで、アジア地域を始めとする海外展開を進める企業で働く人材や、地域と世界をつなげる6次産業の海外展開を担う人材の育成が望まれている。一方、第3期中期目標期間には当制度に加えて全学が実施する短期留学プログラム(ESL(English as a Second Language)、EST(English for Science and Technology)、スプリングプログラム等)の充実に伴い学部学生の参加が増え、表1-A-1に示すように、2017(H29)年度33名、2018(H30)年度21名と参加総数が増加した。[A.1]

		カナダ	オーストラリア	ラオス	インド	タイ	フランス	インドネシア	大韓民国	アメリカ	ドイツ	計
第2期最終年	6年合計	1	3		1				1			6
	H28	1	2			3		1	1	1		9
	H29	17	3	7		1	4	1				33
	H30	8	3		6	1		1	1		1	21

表 1-A-1 協定等に基づく学生海外派遣人数

- 共同獣医学科では、先進国における臨床研修を通じて最先端の獣医療を習得するとともに高度獣医療の分野で国際的に活躍できる人材の養成を促進する目的で、「国際獣医学インターンシップ演習」を2017年度より開講している。この演習では、共同獣医学科臨床系教員の引率の下、英国ケンブリッジ大学獣医学部動物病院において1週間の獣医臨床研修に参加し、先方のレジデント学生とともに実際の臨床症例についてディスカッションし、検査法、治療法等を学ぶ授業で

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

ある。最大受入人数 5 名に対し、2017 年度、2018 年度、2019 年度の受講者はそれぞれ 3 名、4 名、5 名である。[A. 1]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017 年度に本学構内に設置された岐阜県中央家畜保健衛生所の連携・支援係（岐阜県）と応用生物科学部において、家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH）と岐阜県との教育・研究連携について協議し、学部企画運営委員会に「GeFAH の課題と目標」を提示し、学部全体への共有を図った。この協議内容に基づき、獣医事法規、食品衛生学実習、産業動物臨床学実習、大学教育導入演習Ⅱ、公衆・家畜衛生インターンシップなど、共同獣医学科の開講科目において連携教育を行った。また、感染症セミナーを開催するなど、教育連携を組織的に進めている。[B. 1]
- 岐阜県酒造組合と連携し、岐阜県の日本酒産業の更なる発展を目指し、日本酒シンポジウムを継続開催するとともに、この活動を学部教育に活かしている。岐阜大酒プロジェクトとして学生も参画した食品微生物学研究室において酵母を開発し、岐阜大学創立 70 周年に合わせて 2 種類の岐大酒「多望の春 岐山」及び「多望の春 曲阜」の販売を実現した。[B. 1]
- 岐阜県下の農業関連教育機関（県立専門学校、農業高校）で構成される岐阜県域農林業教育システム連携協力会議を開催し、岐阜県域農林業教育システム研究発表交流会を行うなど、連携教育を進めている。[B. 1]
- 地域の食産業の活性化を目指す岐阜県食品科学研究所が学内に開所したことを受け、食品科学に関連する教員と岐阜県・関連産業と連携を図っている。この連携と関連して、醸造に関する知識の習得を目指す「清酒醸造実習」を新たに開設した。また、食品生命科学コースで 3 年生を対象として開講される「食品生命科学実験」のうち、天然物化学実験と食品の保蔵に関する実験の 2 項目について、2019 年度から岐阜県食品科学研究所と連携して実施している。この連携により、地域の食品産業をより深く理解する人材の養成に向けた体制ができた。[B. 1]

- 地域連携による教育プログラムの一授業として「風土保全教育プログラム」を実施している。これは、地元公民館を勉学の間として借用し、地元の住民と連携して地方の特質や保全すべき風土について実地体験・聞き取りなどにより理解することを目標とするもので、飛騨荘川では「荘川公民館大学」の愛称で 10 年以上前から開講している。2016 年には「揖斐川町と応用生物科学部との連携協力に関する覚書」を締結し、揖斐川町小津地区では「小津公民館大学」と称して活動の場に加えた。また、同地区内に「Oz 倶楽部セミナーハウス」を開所するとともに、農林水産省の山村活性化支援交付金採択の支援業務を開始した。この結果、サカゴの地域ブランドを立ち上げ、大学の知見を地域に還元する一つのモデルケースを示すことができた。[B. 1]
- 本学の COC 事業採択を機に、「地域ブランドと地域振興」の授業を立ち上げた。「○○倶楽部」と称し、岐阜県の地域ブランドである「飛騨牛」、「富有柿」、「鳥獣資源」を教材に生産者や関係者との意見交換をもとに学び、若い世代にも広めるための課題を検討する授業である。これまでに「飛騨牛倶楽部」（2014-2017）、「富有柿倶楽部」（2015-2018）、「ジビエ倶楽部」（2018-）を専門基礎科目の位置づけで開講しており、その成果を毎年報告会で発表している。[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017 年度に応用生物科学部将来構想検討 WG を立ち上げ、2 課程を対象とした第三者教育評価委員会答申書（2016 年度）に基づき、[1]教育ポリシーを踏まえた学部教育体系の再構築、[2]大学院（修士）まで含めた高度職業人養成教育の教育体系の構築、[3]人事ポイント削減を念頭に 10 年後に予想される教員体制で実施可能な教育体系の構築、という 3 つの視点で検討した。この WG の答申を受け、課程の教育理念およびカリキュラム・ポリシーの再検証、コアカリキュラムの精査、科目の再配置、卒業研究の理念・教育目的、指導体制の再検討、研究室分属のルール見直し等、細部に亘る改善策の検討につながった。[C. 2]
- 教育改善室において、前年度の授業について教員に依頼したリフレクションペ

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

ーパーの検証を行った。2018 年度は 189 の授業のリフレクションペーパーが提出され、152 の授業で工夫・配慮・考慮した点が記載されていた。また、114 の授業で改善点が記載され、2019 年度授業の改善策が 97 の授業で示された。優れた学習指導方法を共有し、改善を促すためにリフレクションペーパーを公開している。このような取組により、シラバス記載の目標に対する達成度において、「到達した」と回答（自己評価）する学生が 60%以上である科目が第 3 期中期目標期間では約 7 割と高いレベルを維持し、第 2 期中期目標期間より上昇していることから学習成果の向上が図られていることがわかる（図 1-C-1）。[C. 1]

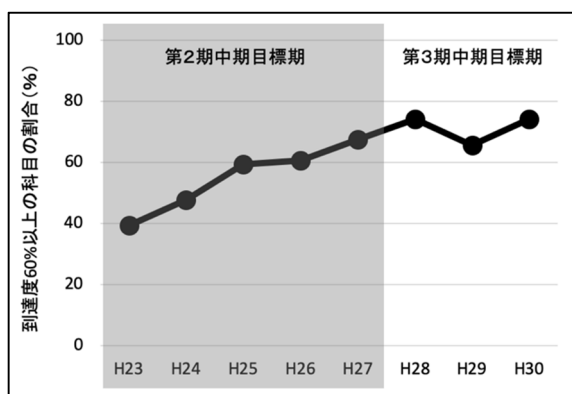


図 1-C-1 シラバス記載の目標に「達成した」と回答した学生が 6 割を超える科目の率

- 2018 年度に全教員を対象として、シラバス・成績評価に関する自己点検評価を行った。112 名中 4 名 (3.6%) の教員がシラバスに課題を見出し、次年度のシラバスの改善計画が提出された。[C. 1]
- 共同獣医学科においては、学生が相互に構成大学を移動して実施する授業について、授業アンケートの結果および改善点を岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科運営委員会において確認・協議し、授業改善につなげている。また、授業アンケートの結果および改善点に関する FD を、岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科会議において開催し、両大学の教員に問題点の共有意識を高めている。授業アンケート集計結果では、2019 年度に実施した鳥取大学が開設する 1 年生開講科目「大学教育導入演習 I」において、岐阜大学（31 名）・鳥取大学（35 名）の学生のほとんどが 5 段階評価の上位 2 段階を選択した項目として、授業の目的・主題の明確性（65 名）、資料等の準備（64 名）、教員の話し方・プレゼン等（62 名）、授業内容への興味（62 名）が挙げられている。[C. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

＜必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4210-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料（再掲） 4210-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 獣医学課程卒業者の獣医師国家試験合格率（農林水産省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 表 2-1-1 に示すように、毎年概ね 9 割以上の学生が修業年限内で学位を取得し、第2期より継続して高い率を維持している。[1.1]

	第2期中期目標期間						第3期中期目標期間		
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
2課程	95.3%	89.0%	89.5%	93.5%	94.4%	92.3%	93.1%	92.9%	95.4%
獣医学科	90.0%	86.7%	89.7%	93.3%	96.4%	100.0%	89.3%	100.0%	90.3%

表 2-1-1 修業年限内での学位取得率の推移

- 共同獣医学科の学生が受験する獣医師国家試験では、第3期中期目標期間の3年間（2016～2019年）で126名の受験者に対し、123名が合格し、98%と極めて高い合格率となった。第2期中期目標期間6年間での合格率が90%であったため、向上していることがわかる。図 2-1-2 のとおり、いずれの年も全国平均を上回る合格率であった。同学科が、獣医師養成に必要な教育を確実に実施していると言える。[1.2]

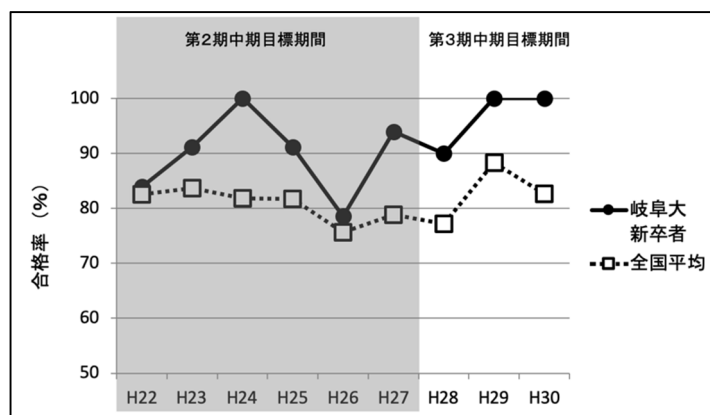


図 2-1-2 獣医師国家試験合格率の推移

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

- 学生の受賞については、毎年受賞件数が増える傾向にあり、表 2-1-3 のように、3 年間で学生の学会賞等の受賞は 13 件となっている（第 2 期は 6 年間で 14 件）。卒業研究のテーマとして行った研究の内容が学会賞を受賞していることは、学生の努力と教員の適切な指導の結果として教育成果が表出したものと考えられる。
- [1. 2]

	第2期中期目標期間						第3期中期目標期間		
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
受賞件数(件)	0	1	2	4	4	3	6	5	2

表 2-1-3 学部学生の受賞件数の推移

- 教員免許について、表 2-1-4 のとおり取得している。年度ごとに数値の増減があるものの、第 2 期中期目標期間と同等の数を第 3 期も維持している。[1. 2]

卒業・修了年度			第2期中期目標期間						第3期中期目標期間		
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
教員免許状 取得者数 (大学院生 を含む)	免許 状の 種 類	高 校 専 修 (理 科)	0	6	2	5	2	0	4	1	0
		高 校 専 修 (農 業)	0	4	0	0	1	0	0	0	0
		高 校 一 種 (理 科)	3	5	21	20	14	17	15	6	19
		高 校 一 種 (農 業)	2	4	9	8	8	3	6	1	4
	計 (延 べ 数)		5	19	32	33	25	20	25	8	23

(単位:人)

表 2-1-4 教員免許状取得状況

- 学部学生を対象とした合成生物学の世界大会 iGEM に参加するため、学生が自発的に研究サークルを立ち上げ、活動している。この活動に対し、本学及び本学部からの補助、研究の場の提供、指導、引率といった教員の支援の結果、第 3 期中期目標期間の 4 年間は連続して入賞している（銀賞 1 回、銅賞 3 回）。学生が自ら探求心を持ち高みに挑戦する姿勢は、本学部が目指す教育の姿であり、このような学生を育む環境を整えている証である。[1. 2]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 図2-2-1に示すように、2課程において大学院修士課程に進学する人数が第3期中期目標期間に増加している。2016年度以降、50%以上の卒業生が大学院に進学し、修士課程まで含めた6年一貫教育が浸透しつつあることがわかる。応用生命科学課程の方が進学と企業への進路が多く、生産環境科学課程の就職先は教員が比較的多いなど、進路に多様性が見られる。共同獣医学科では、小動物臨床への進路が4割を占め、続いて公務員、企業となっている。全体として、同学科ではその特殊性から進路先の多様性が比較的低いという特徴がある。[2.1]

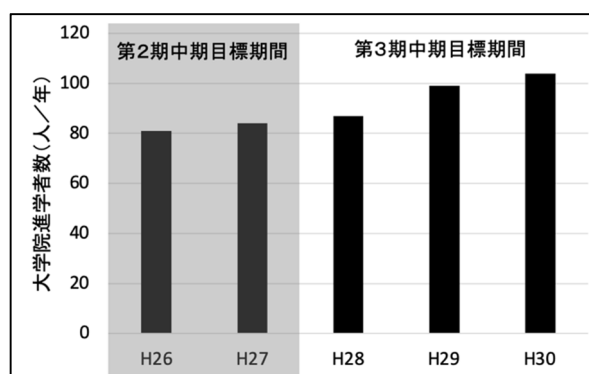


図2-2-1 応用生命科学課程・生産環境科学課程の進学者数の推移

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 4210-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業時アンケート調査において、「学部教育に満足したか」「興味を持つ専門分野を見つけることができたか」「専門科目を総じてよく勉強したか」「専門科目を体系的に履修できたか」という設問では、肯定的(評点4以上の評価)な回答が8～9割となっており、第2期から高い数値を継続している(図2-A-1)。充実した専門教育を提供できている証である。また、「希望した進路先に進めたか」「本学部で学んだことを誇りに思うか」という設問においても、肯定的な返答率が高く、第2期中期目標期間の最終年度に到達した高いレベルを、第3期も安定的に維持していることが確認できる。第3期中期目標期間の同アンケートでは80%の学生が進路先と専門性に関連があると回答しており、第2期中期目標期間の70%から上昇していることから、多くの学生が修得した専門性を活かした進路先に進んでいると言える。[A.1]

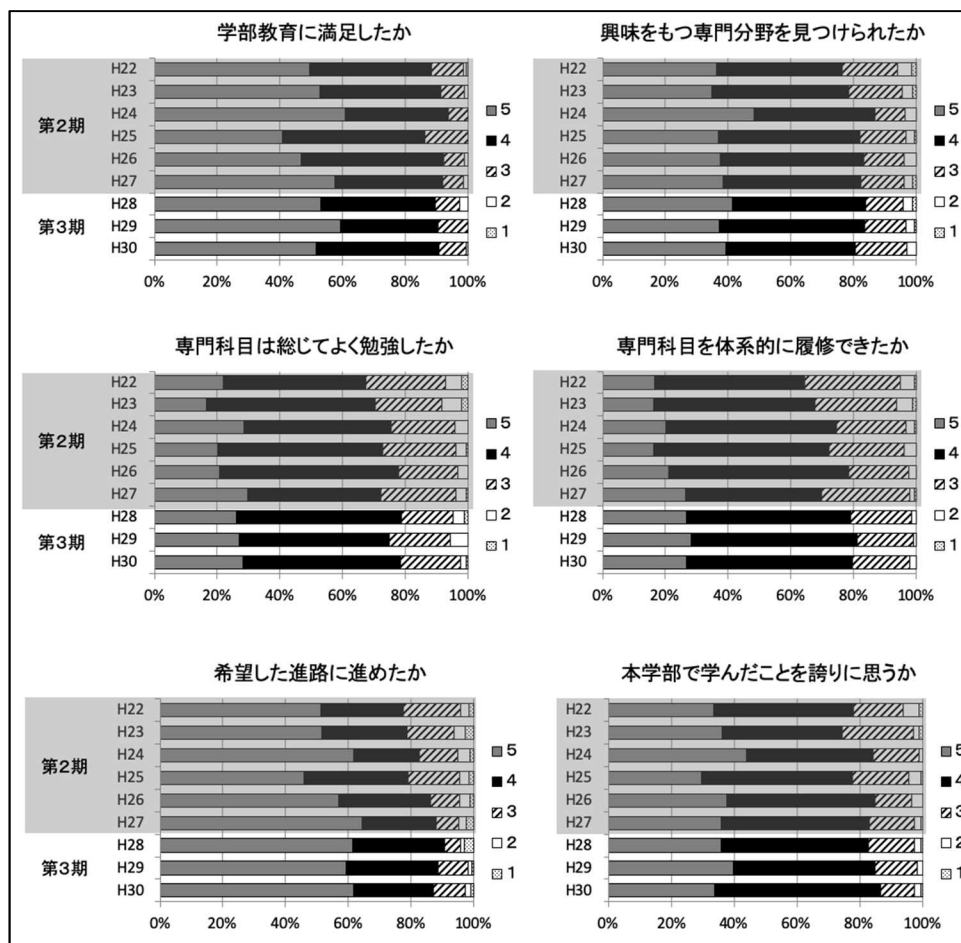


図 2-A-1 卒業時アンケートの結果

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 (別添資料 4210-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 企業説明会を実施した際、その企業で働いている卒業生に関するアンケート調査を実施した。卒業生の印象を尋ねたところ、9割以上の企業担当者が「非常に良い」「良い」と肯定的な回答を示した(図 2-C-1)。この高い肯定率は、第2期中期目標期間から維持している。良い点は何かと尋ねたところ、基礎知識や専門知識の他に、積極性、協調性、人間力も良い点として選ばれていた(図 2-C-2)。これは、本学部の学位授与の方針に合致する結果である。 [C.1]

岐阜大学応用生物科学部 教育活動の状況

	第2期中期目標期間				第3期中期目標期間			
	H25		H27		H29		H30	
	回答数	率	回答数	率	回答数	率	回答数	率
非常に良い	17	47.2%	19	40.4%	19	50.0%	27	45.0%
良い	17	47.2%	27	57.4%	17	44.7%	28	46.7%
どちらとも言えない	2	5.6%	1	2.1%	2	5.3%	5	8.3%
悪い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
非常に悪い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	36		47		38		60	

図 2-C-1 応用生物科学部卒業生に対する雇用先からの評価

	第2期中期目標期間		第3期中期目標期間			
	H27		H29		H30	
	回答数	率	回答数	率	回答数	率
専門知識	10	21.3%	19	51.4%	20	35.7%
基礎知識	28	59.6%	15	40.5%	26	46.4%
積極性	15	31.9%	14	37.8%	28	50.0%
独創性	4	8.5%	2	5.4%	10	17.9%
協調性	27	57.4%	13	35.1%	25	44.6%
倫理性	5	10.6%	3	8.1%	3	5.4%
人間力	18	38.3%	14	37.8%	18	32.1%
英語力	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	47		37		56	

図 2-C-2 雇用先からの評価：応用生物科学部卒業生の優れた特質

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。